

## 大学教育における社会連携と京大建築会の役割

大学教育の「見える化」を求める社会的圧力は年々強くなっており、JABEE による教育目標の設定と外部評価、インターンシップの導入による社会との接続等が従来から強く要請されてきた。また、近年の経済グローバル化に呼応して、「教育」のグローバル化も以前にも増してその必要性が叫ばれている。さらに、高大接続と多様選抜の導入による大学入試改革、学内での TOEFL テストの実施、国際インターンシップへの学生派遣と受け入れの増大、クォーター制（4学期制）導入による留学期間確保の可能性等が検討されており、その改革は教育システム全体に及ぶ。来年度からは、「機能強化」を旗印とする文科省主導による大学改革が本格化し、本学は「世界最高の教育研究の展開」を目指すことになる。

伝統的には博士課程を充実させて次世代の研究者・教育者・高度技術者を輩出するのが、本学の大きな役割である。これを維持するためには、キャリアパスを整備して博士課程進学時点での進路設計を可能とするシステムが求められている。工学の他分野では大学と産業界の緊密な関係に基づいてシステム作りが行われているのに対して、建築界での議論は不活発と言わざるを得ない。

本シンポジウムでは、大学教育の改革を巡る一連の動向を議論し、将来に向けた教育システムの構築へ向けて、大学教育の社会連携という軸から京大建築会の役割を考える。

### 記

日 時 平成 27 年 9 月 12 日（土） 午後 2 時～午後 3 時半

場 所 京都大学百周年時計台記念館 国際交流ホール

### パネリスト（敬称略）

1. 三輪 昭尚（大林組取締役専務執行役員、京大建築会関東支部長、昭和 49 年卒）  
大学と産業界
2. 武井佐代里（国土交通省（現）川崎市役所市街地開発部長、平成 3 年卒）  
建築士制度と大学教育
3. 義江龍一郎（東京工芸大学工学部長、昭和 59 年卒）  
グローバル COE と大学教育改革の事例紹介
4. 平田 晃久（京都大学准教授、平成 6 年卒）  
建築家と大学教育
5. 岡崎太郎（北海道大学准教授、平成 6 年卒）  
大学教育のグローバル化

コーディネータ 原田 和典（京都大学教授、昭和 59 年卒）